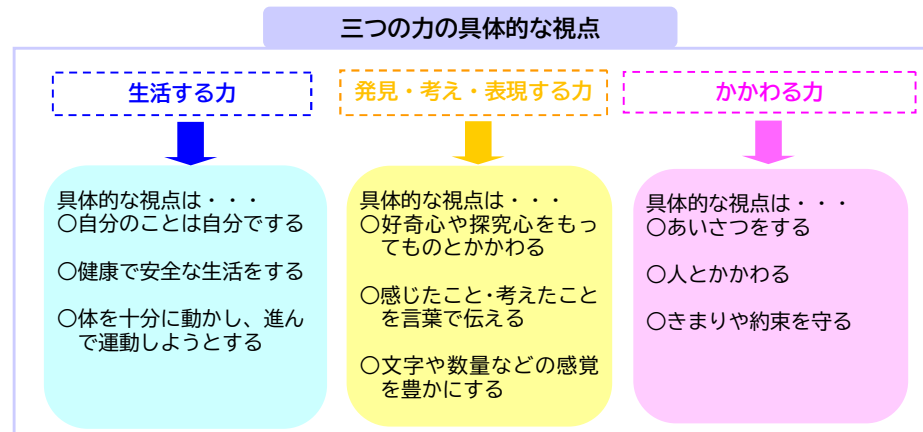


第1章 小学校入学前教育カリキュラムの改訂に当たって【P1】

- 1 小学校入学前教育カリキュラムとは
幼児期の育ちと学びを小学校教育へとつなげるためのもので、5歳児から小学校1年生1学期頃までの円滑な接続に向けての考え方や、カリキュラムの例を示したものである。
- 2 改訂の背景
(1) 国や都の状況
予測困難な社会の変化に対応できる人材育成の必要性
ア中央教育審議会において（平成28年8月、12月）「学校教育全体において育成すべき資質・能力」として、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」が幼児期から18歳の高等学校卒業までを貫く三つの柱として示された。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」も示される。
イ国は幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を平成29年3月に同時改訂、初めて3歳以上の「ねらい」「内容」の記載を同一のものとし、「幼児教育で育みたい資質・能力の三つの柱」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の記載も同一となる。
ウ東京都は「就学前教育カリキュラム 改訂版ハンドブック」（平成30年3月）等を策定。
(2) 港区の状況
区内の乳幼児人口の増加及び待機児童の増加への対応策として、保育園を増設、幼稚園も定員増となる。
- 3 小学校入学前教育カリキュラムの改訂
港区が大切にしてきた「生活する力、発見・考え・表現する力、かかわる力」の三つの力と、幼稚園教育要領等の改訂により示された「資質・能力の三つの柱」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の関係を明らかにするとともに、その趣旨を取り入れ、保育、教育の充実を図り、さらに円滑な幼児教育から小学校教育への接続を進める必要がある。

第2章 基本的な考え方【P5】

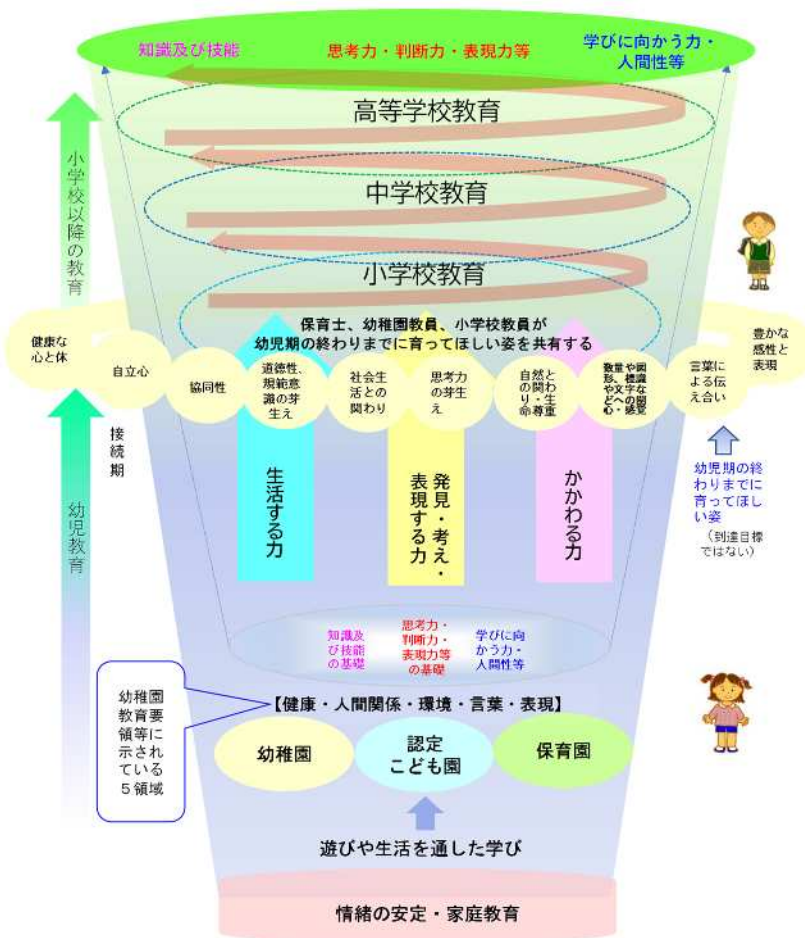
- 1 小学校入学前教育カリキュラムの基本的な考え方
(1) 港区が目指す幼児教育の推進理念
(2) 保育園、幼稚園、認定こども園、小学校の一層の連携
(3) 家庭と連携した質の高い幼児教育の実現
- 2 「育ちと学び」について 幼児の遊びを通した学びの考え方
- 3 小学校入学前までに目指す姿
(1) 小1問題 小学校入学前カリキュラムを活用した小1問題の防止
- 4 円滑な接続に向けて
(1) 三つの力の考え方と具体的な視点
港区が大切にしてきた「生活する力、発見・考え・表現する力、かかわる力」の三つの力の根拠とその考え方について表すとともに、具体的な視点を明記した。



- (2) 学校教育全体で育成すべき資質・能力の三つの柱
幼児期から高等学校卒業までに育成すべき資質・能力の柱として、

<ul style="list-style-type: none"> 知識及び技能（の基礎） 思考力・判断力・表現力等（の基礎） 学びに向かう力、人間性等 	*幼児期においては、（の基礎）という言葉が入る。
--	--------------------------

 の三つが示された。特に幼児教育においては、これらを幼児の自発的な遊びや生活の中で育むとし、そこで育まれた資質・能力を小学校以上の教育につなげ高等学校卒業まで育成する。そのため、学校段階間の接続についても重視されている。
- (3) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
下図の幼児期の終わりまでに見られる10項目の姿を接続の手がかりとして、保育士、幼稚園・小学校教員が共有することとされた。
- (4) 幼児教育から小学校教育への円滑な接続
港区が大切にしてきた三つの力と「学校教育全体で育成すべき資質・能力の三つの柱」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関係性をイメージ図の説明と合わせて表した。
・幼児期から高等学校卒業までに資質・能力の三つの柱を一貫して育成する。
・保育士、幼稚園教員は「生活する力」「発見、考え、表現する力」「かかわる力」をバランスよく育成する。
・その結果、5歳児後半頃から「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が見られるようになり、その姿を手がかりとして、保育士、幼稚園教員、小学校教員が子どもの姿を共有する。
- (5) 接続のイメージ図



第3章 小学校入学前教育カリキュラム【P19】

- 1 小学校入学前教育カリキュラム
5歳児のカリキュラムの作成におけるポイント
○身に付けさせたい内容（具体的な視点を設定）
・生活する力における具体的な視点
・発見・考え・表現する力における具体的な視点
・かかわる力における具体的な視点
○具体的な指導上の留意点
・その時期の大切な指導のポイントを明確化
○環境の構成の工夫
・環境の構成の工夫について、特におさえておきたい内容
○具体的な活動例
・具体的な活動がイメージできるように例示
- 2 スタートカリキュラム
小学校学習指導要領の改訂にて、「生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること」と明記される。
幼児期に総合的に育まれた「見方・考え方」や資質・能力を各教科等の特質に応じた学びへとつなげていくことの重要性
入学当初、児童が新しい環境の中で、安心して過ごし、幼児教育から小学校教育へと円滑に移行するために、幼児期の育ちと学びを理解した教師側の配慮や工夫、家庭との連携を記載
教科書の改訂により、令和2年度より使用予定の教科書を使用したスタートカリキュラムに大きく変更
コラムを増設
・食物アレルギー対応
増加する食物アレルギー対応の重要性等を記載
・入学当初の掲示物の工夫例
接続期の小学校入学時に、児童が早く学校生活に慣れるよう幼児教育が大切にしている環境を通した教育の一つとして、児童が見て考えて、見通しをもちながら動くことができるような、掲示物の工夫例を写真で掲載

第4章 連続性・一貫性のある実践例【P43】

- 具体的な実践事例をととして、「ねらい」「環境の構成」「幼児の指導（援助）のポイント」「経験している内容」「期待される育ちや学び」「小学校教育とのつながり」「家庭教育とのつながり」を記載。
「小学校教育とのつながり」の中に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連や考え方を明記
・新たに園内研究会等で協議されるような「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながるエピソード事例を記載

第5章 家庭との連携【P55】

- 1 家庭との連携のポイント
保護者が我が子の小学校生活への適応に関する悩みや不安の解消のため、家庭との連携のポイントや取組例、保護者への啓発のため学級懇談会や保護者会等で使用する「家庭で配慮していただきたいこと」の欄に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を記載
- 2 特別な配慮を要する子どもの支援
就学支援シートを変更、最新版を記載

今後のスケジュール

令和2年4月 改訂版を各園、小学校で活用開始